

目 次

1. 八王子の地域特性	1
(1) 地区の特性	1
(2) 主な産業	2
(3) 大学等	4
2. ごみ減量・資源化施策の実施経緯	5
3. 八王子市廃棄物減量・再利用推進審議会の経過	6
4. 将来人口推計	7
(1) 将来人口の考え方	7
(2) 年齢別将来人口推計	8
5. 将来ごみ量推計	9
(1) 家庭系ごみと資源の推移	9
(2) 事業系ごみの推移	9
(3) 過去と将来のごみ量予測の内訳	10
6. 計画の目標値	11
(1) 目標値の設定根拠	11
(2) 目標を達成するための施策展開	12
(3) 目標値の将来推移	19
(4) 国・都の目標値との比較	20
7. 処理体制の現状と将来	21
(1) 現状のごみ処理体制	21
(2) 将来のごみ処理体制	22
8. 計画の基礎資料	23
(1) ごみの組成	23
(2) 事業系一般廃棄物調査結果	26
(3) 廃プラスチック資源化に係るライフサイクル・アセスメント（LCA）結果	29
(4) 主な施策に係る基礎数値	34
9. ごみ処理基本計画の策定経過	35
10. 市民・事業者の意見	36
(1) ごみ処理基本計画（素案）に対する市民意見の概要	36
(2) 事業者会議の概要	37

1. 八王子の地域特性

八王子市は、都心から西へ約 40km、新宿から電車で約 40 分の距離に位置しています。地形はおおむね盆地で面積は 186.31km²、北・西・南は海拔 200m から 800m ほどの丘陵地に囲まれ、東は関東平野に続いています。

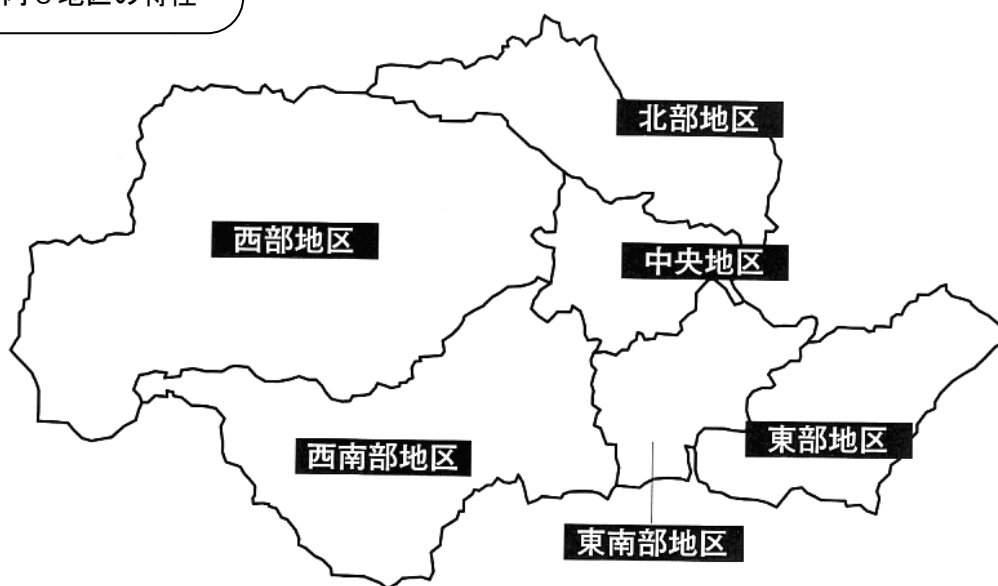
大正 6 年の市制施行から 90 年を経た現在は、人口 54 万人の多摩地区の中核都市として、23 の大学・短期大学・高専を抱えた学園都市として、発展を続けています。

(1) 地区の特性

自然に恵まれ広がりのある市域を有する八王子市は、地勢が豊かなことも大きな特長です。市内は 6 地区（中央地区・北部地区・西部地区・西南部地区・東南部地区・東部地区）に分けられ、各々に地区の特性があります。

このような状況から、八王子市では地域に応じた 3R 推進、ごみ減量の啓発等を行う必要があります。

市内 6 地区の特性



地区	地域の特性
中央地区	八王子の中心市街地で、地区の中央を浅川が流れています。商業地域や住宅地が密集する中にも、山田川の上流部や丘陵の一部に自然が残っています。
北部地区	地区の大半を加住丘陵が占めるみどり豊かな地域で、多摩川沿いには水田も残っています。地区の東南部は比較的平坦で、住宅地や工業地域となっています。
西部地区	地区の西部に陣場山や今熊山などの山地が広がる自然豊かな地域で、八王子の河川の源流地域です。地区の東部の平坦部には住宅地や畑地が広がっています。
西南部地区	地区の西部に高尾山などの山地が広がり、それにつづく美しい里山が残る地域です。地区の東部は住宅団地などを主とする市街地となっています。
東南部地区	中心市街地につづく住宅地が広がる地域です。周辺部のまとまった緑地や農地など、身近なところに良好な自然環境がまだ残っています。
東部地区	地区の南半分は多摩ニュータウン、北部半分は多摩丘陵の里山が残る、みどりに囲まれて計画的に整備された新しい都市が広がる地域です。

(2) 主な産業

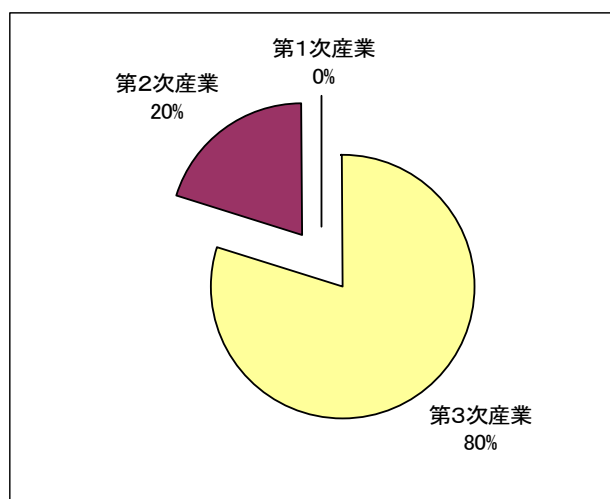
「事業所・企業統計調査報告」(平成16年6月1日現在)によると、主な産業は第3次産業であり、その中でも卸売・小売業、サービス業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、不動産業の事業所数の割合が多くなっています。ただし、第3次産業全体の1事業所当たりの平均従業者数は約10人であり、中小事業所の占める割合が多いことが特徴です。

このような状況から、小規模排出事業系ごみとして排出される事業系ごみは多くなっています。

産業別事業所数 (事業所)

	事業所数
第3次産業	14,134
第2次産業	3,559
第1次産業	16
総数	17,709

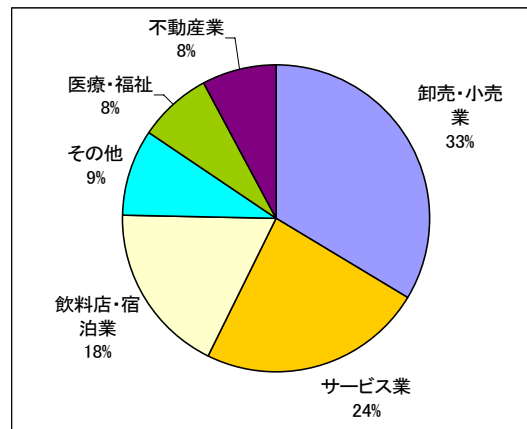
(出典) 事業所・企業統計調査報告



第3次産業の事業所と従業者数（事業所・従業者）

	①事業所数	②従業者数	②÷①
卸売・小売業	4,671	42,780	9
サービス業	3,323	29,857	9
飲料店・宿泊業	2,552	19,710	8
その他	1,389	29,755	21
医療・福祉	1,105	22,348	20
不動産業	1,094	3,462	3
総数	14,134	147,912	10

（出典）事業所・企業統計調査報告



八王子市では、新鮮で安心・安全な農作物を市民へ提供すること、また、都市の防災機能、緑地として生活に潤いを与える場所を提供するなど、都市農業の持つ重要性に着目しています。また、近年は市民の農業に対する意識の高まりやニーズに応えるため、各地区（石川・大谷・宇津木、加住、川口、元八王子、恩方、浅川・由井・横山、由木）で都市農業の持つ多面的機能を発揮した農業が営まれています。

このような状況から、将来的には新鮮で安心・安全な農作物を市民へ提供することを前提とした食の循環モデル事業への取り組みに期待ができます。

各地区の状況

地区	現況
石川・大谷・宇津木	優良な農地が広がっており、施設野菜等の栽培が盛んで、農業研修農場（旧三宅島元気農場）もこの地域にあります。
加住	多摩川と秋川の合流点、あきる野市との境の高月町では東京都で一番広い水田が広がっており、畜産等との複合経営が行われています。
川口	檜原・犬目地区は、平坦で優良な農地があり野菜が中心に作られています。
元八王子	野菜、椎茸などを中心に栽培している地区です。
恩方	中山間地で耕地も狭く傾斜地も多いことから観光農業が盛んで、最近ではブルーベリー栽培や花卉の生産（直売）に取り組んでいます。
浅川・由井・横山	小比企の丘陵地にまとまった畑があり、大根、かぶ、小松菜等が作付けされ、減農薬など環境に配慮した農業にも積極的に取り組んでいます。
由木	多摩ニュータウンの開発に伴い急速に農地が減少し、市内でも最も都市化が進んでいる地区ですが、若い農業後継者が多く、野菜、花卉、椎茸、酪農など多種多様の農業が営まれています。

（出典）八王子市の農林業と農業委員会の概要（平成18年8月）

(3) 大学等

八王子市市域には 23 の大学・短期大学・高専があり、11 万人を越える学生が学んでいる全国でも有数の学園都市です。

このような状況から、大学・学生等と連携した共同研究、ごみ排出マナー・分別意識の向上に期待ができます。

八王子市域の大学・短期大学・高専

工学院大学、明星大学、国立東京工業高等専門学校、帝京大学、帝京大学短期大学、東京造形大学、東京純心女子大学、杏林大学、多摩美術大学、創価大学、創価女子短期大学、東京薬科大学、拓殖大学、中央大学、日本文化大学、法政大学、東京工科大学、首都大学東京、山野美容芸術短期大学、ヤマザキ動物看護短期大学、東京家政学院大学、サレジオ工業高等専門学校、デジタルハリウッド大学（合計 23 校）

2. ごみ減量・資源化施策の実施経緯

ごみ減量・資源化に関するこれまでの主な施策は以下のとおりです。

平成5年	10月 新たに「八王子市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例」施行 12月 八王子市廃棄物減量・再利用推進審議会の設置
平成6年	4月 古紙（新聞、ダンボール、雑誌類）分別回収開始 12月 空きびん分別回収事業全市域実施
平成8年	6月 ペットボトル一部地域で分別回収開始
平成9年	9月 空き缶一部地域で分別回収開始 10月 北野余熱利用センター「あったかホール」の運営によるリサイクル啓発
平成10年	4月 インターネット・ホームページの活用（市のHP）によるリサイクル啓発 6月 空き缶全市域で分別回収開始 10月 古着・古布分別回収開始 10月 ペットボトル全市域で拠点回収開始
平成12年	9月 はがき類拠点回収事業開始 10月 プラスチック類回収モデル事業開始
平成13年	9月 白色発泡スチロールトレイ拠点回収事業開始
平成14年	2月 集合住宅生ごみ資源化モデル事業開始 4月 黒ビニール袋不使用の徹底 10月 八王子駅北口周辺地域での早朝収集開始
平成15年	9月 有料化実施の発表 9月～ 町内自治会連合会等への有料化説明会開催 11月～ リサイクル推進員対象への有料化説明会開催
平成16年	3月 ごみ有料化の条例改正 3月 集合住宅生ごみ資源化モデル事業終了 4～9月 ごみ有料化説明会（集合住宅専用のチラシ各戸配布・学生用チラシ配布） 9月 指定収集袋販売開始 10月 指定収集袋（有料化）制度、戸別収集、資源物回収の拡充の同時実施 10月 少量排出事業系ごみ収集実施
平成17年	7月 ペットボトル夏季毎週回収開始 1月～2月 事業系ごみ組成分析実施

3. 八王子市廃棄物減量・再利用推進審議会の経過

八王子市廃棄物減量・再利用推進審議会における審議事項（平成5年～平成16年）は以下のとおりです。

廃棄物減量・再利用推進審議会

- ・ 平成5年12月 設置
- ・ 構成員： 20名
- ・ 構成メンバー：
一般公募の市民、事業者の代表、学識経験者、市職員、町会・自治会の代表、集団回収団体の代表、再利用推進団体の代表、消費者団体の代表、労働団体の代表、一般廃棄物処理業者の代表、再生資源取扱業者の代表

(1) 諮問事項：「収集ごみの有料化について」

平成5年12月～平成9年5月

計18回開催

（専門部会26回開催）

答申：平成9年6月

(2) 諮問事項：「廃棄物減量・リサイクルに関する啓発について」

平成10年7月～平成11年10月

計12回開催

答申：平成11年12月

(3) 諮問事項：「プラスチックごみの減量とリサイクルについて」

平成12年7月～平成13年11月

計10回開催

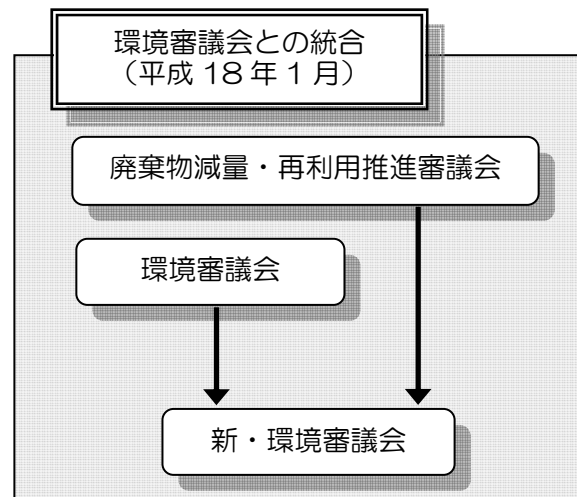
答申：平成13年12月

(4) 諮問事項：「ごみの発生抑制について」

平成15年7月～平成16年6月

計7回開催

答申：平成16年7月



4. 将来人口推計

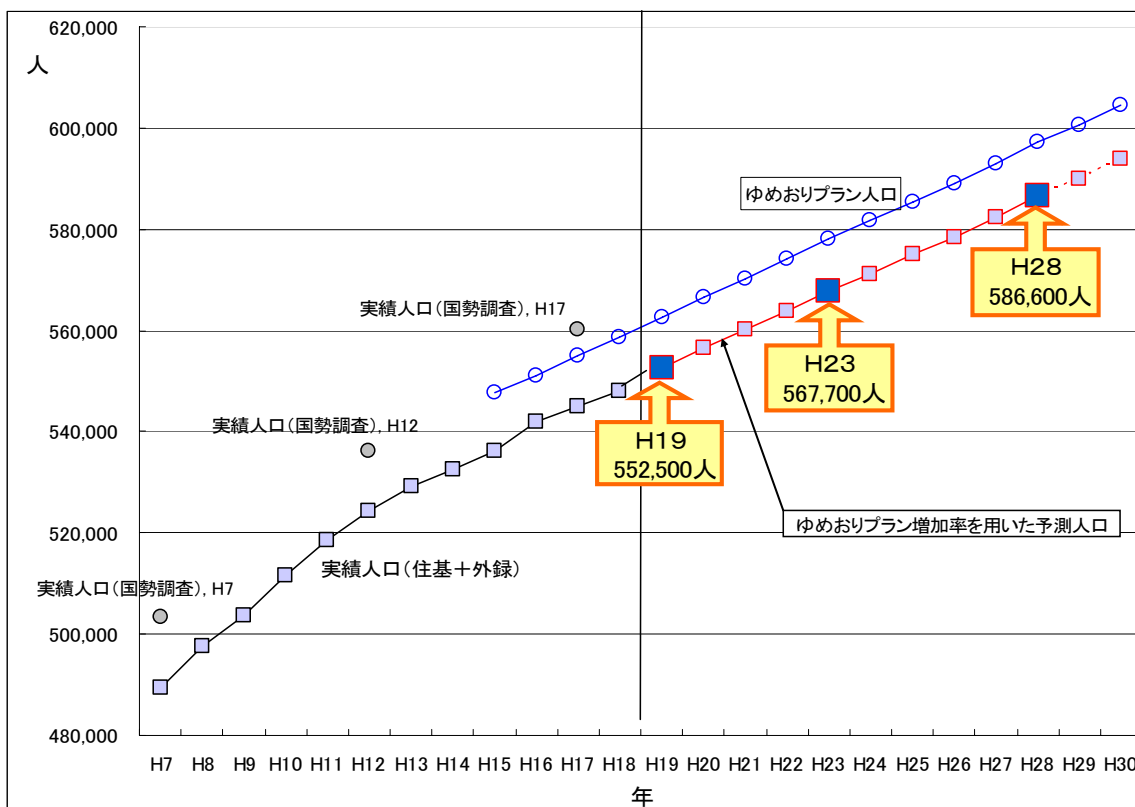
ごみ処理基本計画における将来人口は、以下の考え方に基づいて予測しました。

(1) 将来人口の考え方

ごみ処理基本計画の将来人口は、平成 18 年の住民基本台帳(外国人登録者数含む)の実績人口を起点に、将来の動向を本市の基本計画「八王子ゆめおりプラン(H.15.3)」で予測している将来人口の増加率を用いて算出しました。

□ ゆめおりプラン予測人口の増加率を用いた将来人口 (単位：人)

年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
総人口	552,500	556,500	560,100	563,800	567,700	571,200	575,000	578,400	582,500	586,600
対前年増加率	100.80%	100.73%	100.64%	100.67%	100.68%	100.62%	100.67%	100.60%	100.70%	100.71%



(2) 年齢別将来人口推計

住民基本台帳人口の年齢別人口を用いた将来人口予測の結果は以下のとおりです。
(外国人登録者数(平成17年度8,044人)は年齢別データが把握できないため予測の対象外としています。)

① 予測結果

予測結果では、

- ・人口増加は今後も続きますが、人口増加率は徐々に減少する推移を示しました。
- ・年齢別では、今後0～64歳の減少傾向、65歳以上の増加傾向が徐々に表れ、将来的には少子高齢化の傾向となる結果を示しました。

□ 将来人口推計(総数)

	実績			予測		
	H7	H12	H17	H19	H23	H28
実績	489,334	524,415	545,065	552,500	567,700	586,600

年齢3区分割合

年齢構成	H7	H12	H17	H19	H23	H28
0～14歳	14.9%	13.9%	13.4%	12.9%	12.5%	12.1%
15～64歳	74.1%	72.3%	69.5%	69.2%	67.5%	65.4%
65歳以上	11.0%	13.8%	17.1%	17.9%	20.0%	22.5%

※ 年齢構成比率の実績は住民基本台帳による人口比率としました。(外国人登録者を除く)

※ 年齢構成比率の予測はゆめおりプランによる比率としました。

② ごみ処理基本計画への反映

パブリックコメントなどの市民意見を反映して、高齢化によるニーズなど社会構造の変化により必要とされる

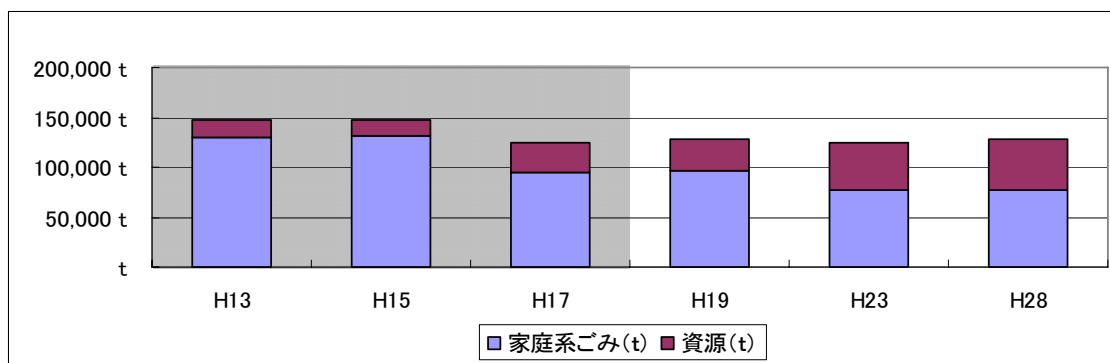
「ふれあい収集の対象範囲の拡大」
「資源物の戸別回収の実施」
「在宅医療廃棄物への対応」

等の新しい施策について計画に反映しました。

5. 将来ごみ量の推計

ごみ処理基本計画の計画目標年（平成 28 年度）に向けた、過去の推移と将来予測は以下のとおりです。

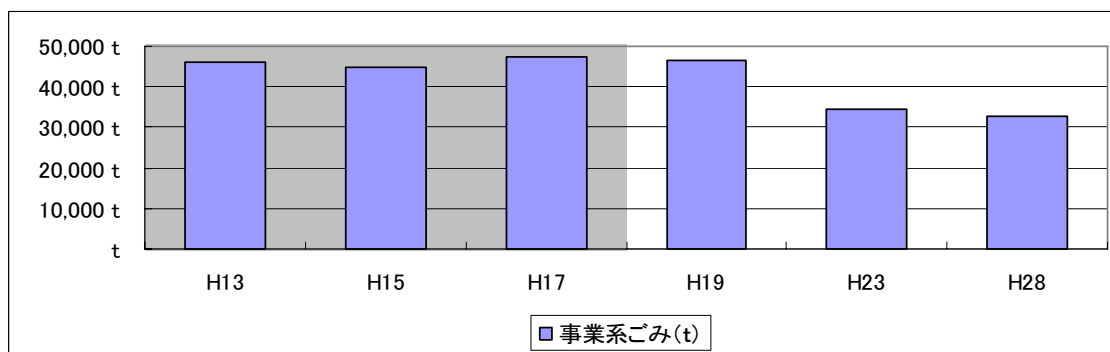
(1) 家庭系ごみと資源の推移



区分	実績			施策実施有		
	H13	H15	H17	H19	H23	H28
家庭系ごみ(t)	130,311	130,998	94,780	96,800	77,400	77,100
資源(t)	16,275	16,510	30,249	31,300	47,700	51,500
計(t)	146,586	147,508	125,029	128,100	125,100	128,600

※資源には集団資源回収は含まれていません。

(2) 事業系ごみの推移



区分	実績			施策実施有		
	H13	H15	H17	H19	H23	H28
事業系ごみ(t)	46,334	44,932	47,612	46,400	34,600	32,900

(3) 過去と将来のごみ量予測の内訳

(単位:t/年度)

区 分		実績			予測			
		H13	H15	H17	H19	H23	H28	
人口(人)		529,083	536,095	545,065	552,500	567,700	586,600	
年間排出量	家庭系	可燃ごみ	106,230	105,532	74,266	75,900	68,900	68,400
		不燃ごみ	22,319	23,618	18,566	19,000	6,400	6,600
		粗大ごみ	1,639	1,710	1,779	1,700	1,900	1,900
		廃乾電池等	123	138	169	200	200	200
		小計	130,311	130,998	94,780	96,800	77,400	77,100
	持込	資源物	16,275	16,510	30,249	31,300	47,700	51,500
		計	146,586	147,508	125,029	128,100	125,100	128,600
		可燃ごみ(事業系)	46,334	44,932	47,612	46,400	34,600	32,900
		不燃ごみ(家庭系)	1,007	1,379	2,443	2,100	1,900	1,900
		計	47,341	46,311	50,055	48,500	36,500	34,800
集团資源回収		12,264	12,810	13,656	13,900	14,300	14,700	
合計		193,927	193,819	175,084	176,600	161,600	163,400	
集团資源回収含む		206,191	206,629	188,740	190,500	175,900	178,100	
年間処理処分量	焼却処理量	169,054	169,353	139,121	138,700	111,100	109,200	
	焼却残渣発生量	14,930	13,892	10,449	10,400	8,950	7,900	
	不燃物処理量	24,792	26,536	22,849	23,300	10,200	10,400	
	不燃物残渣発生量	3,610	3,846	3,493	3,000	1,300	1,300	
	資源化量	40,750	41,334	52,071	64,400	76,300	80,200	
	リサイクル率	20%	20%	28%	34%	43%	45%	
	埋立処分量	18,540	17,738	13,942	3,000	1,300	1,200	

(参考) 有料化によるごみ減量 28%を維持しながら推移した場合

(単位:t/年度)

区 分		実績			予測			
		H13	H15	H17	H19	H23	H28	
人口(人)		529,083	536,095	545,065	552,500	567,700	586,600	
年間排出量	家庭系	可燃ごみ	106,230	105,532	74,266	76,400	77,600	80,000
		不燃ごみ	22,319	23,618	18,566	19,200	19,400	20,000
		粗大ごみ	1,639	1,710	1,779	1,900	1,900	1,900
		廃乾電池等	123	138	169	200	200	200
		小計	130,311	130,998	94,780	97,700	99,100	102,100
	持込	資源物	16,275	16,510	30,249	31,000	32,100	32,900
		計	146,586	147,508	125,029	128,700	131,200	135,000
		可燃ごみ(事業系)	46,334	44,932	47,612	47,900	50,000	51,200
		不燃ごみ(家庭系)	1,007	1,379	2,443	2,100	2,000	2,100
		計	47,341	46,311	50,055	50,000	52,000	53,300
集团資源回収		12,264	12,810	13,656	13,900	14,300	14,700	
合計		193,927	193,819	175,084	178,700	183,200	188,300	
集团資源回収含む		206,191	206,629	188,740	192,600	197,500	203,000	
年間処理処分量	焼却処理量	169,054	169,353	139,121	141,000	143,900	148,300	
	焼却残渣発生量	14,930	13,892	10,449	10,600	11,000	11,400	
	不燃物処理量	24,792	26,536	22,849	23,200	23,200	24,000	
	不燃物残渣発生量	3,610	3,846	3,493	3,000	3,000	3,100	
	資源化量	40,750	41,334	52,071	56,900	58,400	60,700	
	リサイクル率	20%	20%	28%	30%	30%	30%	
	埋立処分量	18,540	17,738	13,942	3,000	3,000	3,100	